

126
2023冬

にってん フォーラム

高田馬場^{いち にーさん しっ!}1-23-4 長岡英司

日点みんなの集い開催

本間一夫文化賞受賞記念講演

小林博紀氏「点字とからくり」

いつも「熱き心」を胸に抱いて

～小林博紀先生—— 山本たろ

表彰のお知らせ

川崎市視覚障害者情報文化センターだより

—— 遠藤佳世子

にってんワークショップ開催報告

田中会長『白い杖、空を行く』を上梓—— 立花明彦

「石を感じる」展 開催中—— 伊藤宣真

私と日点—— 北郷博光

明日につながる支援の力

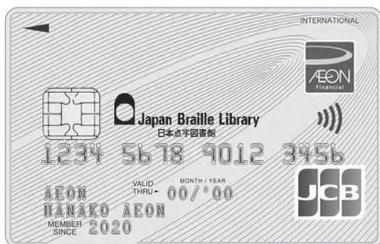
リレーエッセイ—— 鈴木 泉

ご存じですか?こんな商品

チャリティコンサートご協力のお礼



日本点字図書館カード 会員募集中



入会金・年会費無料

カード盗難保障が無料です。

※カードの発行には所定の審査がございます。

カードご利用金額の一部を

社会福祉法人日本点字図書館へ寄付いたします。

寄付金は、点字図書、録音図書の制作・貸出に役立てられます。

(※カード会員さまのご負担はございません)

みなさまがカード会員となり、ご利用いただくことで

視覚障がい者の方々を応援できるカードです。

その他詳細・
お申込みはこちら

日本点字図書館カード

検索

■カードに関するお問い合わせはコールセンターまで(受付時間 9:00~18:00)年中無休

 0570-071-090(ナビダイヤル:有料) 043-296-6200(有料)

お電話番号をよくお確かめの上、お間違えないようご注意ください。



電車での親切あれこれ

ながおかひでじ
理事長 長岡英司

私は、JRの2路線を乗り継ぎ、白杖を使って通勤しています。片道の乗車時間は、約50分です。行きも帰りも通勤時間帯ですので、車内はかなり混雑しています。しかし、3年前に新型コロナウイルスによる社会の混乱が始まったからのしばらくの間は、混雑時間帯でも電車は驚くほどすいていました。

そのころのことです。私は自宅の最寄り駅で、毎朝同じ時刻に同じ場所から乗車します。車内がすいていることは気配で察知できるものの座席の空き状況までは分かりません。そこで、いつも通り出入口の脇に立っていたところ、「席が空いていますけど、座りますか？」と問いかけられました。それからの毎朝、同じ声が、「今日はこちらが空いています」と告げながら席まで案内してくれるようになりました。隣の始発駅から乗っているらしいその女性は、電車の停止位置が少しずれたときには、車外まで迎えに来てくださいました。昨年春、私は出勤時間を変えることになりました。そこで、案内をしていただく短い時間に、それまでのお礼を申し述べて名刺をお渡ししました。数日後、その方からのメールが届きました。それを読んで、毎朝数十秒間の親切を2年近く続けてくださった方のお名前が初めて分かりました。文面には、「席がたくさん空いているのに立っていなければならないのはフェアではないと思って声をかけました」と記されていました。

昨年の夏の朝、乗り換え駅で、「いつも同じ場所に立って乗っているのを見かけますが、座らないほうがいいのですか？」と、隣で電車を待つ女性から聞かれました。「空いている席が分からないからです」と答えると、「同じ時間に乗ることが多いので、これからは空いている席を教えますよ」と明言してくださいました。電車の遅延で駅が大混雑したときに、その方が心配して、乗り換え通路まで探しにきてくださったこともありました。電車ではほかにも、車内の離れたところの空席まで案内してくれる人、乗車の際にさりげなく手を添えてくれる人、ご自身が行く方向とは異なるのに乗り換えホームまで同行してくれる人、などなど、嬉しい親切に出会うことが以前より増えました。そして、それをしてくださる人々の範囲が、老若男女へと広がったように思えます。

日点みんなの集い開催

2022年11月12日(土)、当館にて「日点みんなの集い」を開催いたしました。この行事は、勇退される奉仕者の皆様、にってん野路菊賞受賞者、本間一夫文化賞受賞者を表彰し、感謝をお伝えする場です。今年度も新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、関係者のみで執り行ないました。

にってん野路菊賞は、当館の業務等への貢献が大きかった個人・団体を称え、感謝を表すものです。本間一夫文化賞は創立者の本間一夫を記念し、視覚障害者の文化向上に優れた業績をあげた個人・団体を顕彰するために創設いたしました。勇退される奉仕者ならびに受賞者の皆様のご芳名を以下に記し、心より感謝申し上げます。

受賞者のみなさま

◆勇退奉仕者・団体

あんどうけいこ 安東徑子様	いしもとさちこ 石本幸子様	いとう さかえ 伊藤 栄様	おおさわ みよ 大澤美代様	かね こみちひろ 金子道弘様
きむらさとこ 木村里子様	こまつかよこ 小松香代子様	さかい ちかと 酒井親人様	つばき てつこ 坪木哲子様	なか お 中尾るか様
ますすまこ 栴寿摩子様	まつおかえつこ 松岡悦子様	み わしずこ 三羽静子様	むつき会様	も がみりょう たろう 最上 亮 太郎様
やすいたかこ 安井孝子様	わがつまけいこ 我妻桂子様			



※写真撮影時のみマスクを外しています

本間一夫文化賞受賞記念講演

小林博紀氏「点字とからくり」

「65年ぶりの再会です。一所懸命、頑張った甲斐がありました。」小林氏が学生時にアルバイトで製作した点字タイプライターは、今日まで当館で大切に保管されています。式典前に理事長の長岡がタイプを実演すると、機器は滑らかに動きました。

三度の食事より動くものが好きだったという小林氏は、子供の頃から鉱石ラジオ作りや家の改装など、モノづくりを楽しんだそうです。25歳の時には井戸水を巻き上げて利用する「からくり」で自作の冷房を工場に設置したこともありました。

小林鉄工所の点字製版機第1号は、京都出身の教育者・鳥居篤治郎^{とりいとくじろう}から依頼を受けた小林氏のお父様によって作られました。同社はこれまでに500台近くの点字機器を製作し、一部は韓国にも輸出しています。

点字製版機は垂鉛板にピンを打ち付けることで母型をとりますが、その力強く正確に点字を打つ「からくり」は、製版機の誕生から長年を経た現在もなお、当時の技術が活かされているといいます。「良いところはいつまででも活かせる。そういうことが素晴らしく、面白いと思います。」また、コンピュータの発展に伴い、機械側もその対応に迫られる大変さや、触読者は0.05ミリの点字の高さの違いがわかると聞かされて、触読の感覚を製版機に取り入れる難しさについても語りました。



65年前に製作した点字タイプライターと

さらにお話の中で驚いたのは、完成した点字機器はすべて小林氏がトラックで配送しているということです。納品先が開梱に苦労するという理由から、全国各地へ自ら運搬、設置し、メンテナンスまで行なっています。リズミカルに動く製版機その奥には目には見えない多くの努力がありました。「今日より明日。明日より明後日という発展ばかりを考えて」いる小林氏と小林鉄工所の皆様によって、視覚障害者の権利が守られていることを改めて実感する機会となりました。

利用者の方は、*にってん*デイジーマガジン2022年12月号で本講演の内容をお聞きたいだけです。

いつも「熱き心」を胸に抱いて ～小林博紀先生

社会福祉法人京都ライトハウス 理事 やまもと 山本たろ

点字出版所では点字製版機や点字印刷機を使わずにできる仕事は殆どないといってもいい。点字製版機が「ある」ことが当たり前の者には、その製版機を一から作り始めた方は「昔の偉人」のイメージすら持つ。しかし小林博紀さんはまだまだ現役で頑張っておられる我々と同時代の方である。

小林鉄工所は京都ライトハウスからは車で30分とかからない距離にある。しかし、国内唯一の点字製版機メーカーとなってしまった今、小林さんは大変忙しく、全国をメンテナンスに駆け回っておられ、気軽には訪ねられない。それでも何度かお邪魔した。今後の製版機の未来を心配している者は多く、点字出版部会で製版機のメンテナンスに関しての知識の共有と小林さんにご講演いただくための機会を設けたが、その打ち合わせを兼ねてであった。

時代を築いた製版機が生まれた現場とは。読者も非常に興味をお持ちだと思うが、物々しい雰囲気工場というよりは、小林さんその人と同じようにただ実直に目の前の課題と向き合うのに相応しい、必要なものを凝縮させたような空間であった。職場で見慣れた製版機なのに、カバーが外されたりしていてもと違う「改良途中」の様子を見ると、改めてここで生み出されたものと実感する。その間を行き来し、これは、あれはと説明して下さる小林さんはやはり信念の人なのだろう。現状に満足することなく、今製作中の新製品のことを熱く語られ、それが完成することによってどんな将来が期待できるのかをしっかりと見ておられる。あれから数年経って、栄えある本間一夫文化賞を受賞された小林さん。お会いするたび「新しいことを考えている」「これを見てよ」と言われるその姿は、実に頼もしく感じられる。

ご受賞のお祝いをとお電話を差し上げたところご不在で、ご息子が電話に出られた。今後の展望を伺うと「引き継いでいこうと思う」旨の言葉を頂き、胸をなでおろしたところである。今後も視覚障害者への情報提供をまい進させるために、ますますのご活躍を祈念いたしております。

表彰のお知らせ

長年にわたり、点訳・朗読・校正・デージー編集ボランティアとしてご活躍くださっている方々が、下記の大会において表彰されました。おめでとうございます。

第71回東京都社会福祉大会

会長表彰

みずたに みさこ
水谷 房子様：〈点訳〉昭和60年より点訳59タイトル、289巻、33,947ページ。
校正20タイトル、104巻。

みやしろかい
宮代会点訳サークル様：〈点訳〉平成12年よりプライベートサービスで点訳99,533ページ。

かわべしほこ
川邊志保子様：〈朗読〉平成11年よりプライベートサービスで朗読97タイトル、713時間。

会長感謝

おおた さとし
大田 怜様：〈校正〉平成20年より校正177タイトル、1,383時間。デージー編集48タイトル、381時間。デージー編集校正83タイトル、691時間。

第70回全国盲人福祉施設大会

なかた きみこ
中田 公子様：〈点訳〉昭和50年より点訳119タイトル、587巻、71,875ページ。
校正23タイトル、146巻。

第52回朗読録音奉仕者感謝の集い(鉄道弘済会、日本盲人福祉委員会共催)

関東甲信越地区表彰

かきうちえみこ
垣内恵美子様：〈校正〉平成19年より校正168タイトル、1,278時間。

ちばこ
千葉かつ子様：〈デージー編集〉平成14年よりデージー編集320タイトル、2,997時間。

※表彰の実績は、推薦時のものです。

川崎市視覚障害者情報文化センターだより

訓練生屋外交流会を開催しました

利用者支援グループ えんどう か よ こ
遠藤佳世子

当センターの行事のひとつとして、白杖歩行やスマートフォン、パソコンなどの訓練を受けている訓練生を対象にした屋外交流会があります。訓練生同士の交流を図ることを目的に、毎年秋頃に開催しているものです。今年度は10月6日（木）、東京都八王子市にある高尾山に行きました。参加者は、訓練生6名と付き添いの方4名、職員7名の合計17名。また、観光協会のガイドの方3名も一緒です。

当日は、ケーブルカーの高尾山駅周辺を散策するグループと、薬王院まで往復するグループと二手に分かれ、散策を楽しみました。当日は、雨がしとしと降りしきり、気温はなんと、10月初旬としては異例の10度台前半！あまりの寒さに、周辺散策グループは、早々に屋内に避難し、コーヒーで一息つきながら植物観察を楽しむことにしました。レモンのような香りの葉っぱ、手触りがふかふかした葉っぱなど、五感を刺激される植物に、みなさん興味津々です。ゆったりと流れる時間の中、植物の感触を楽しんでいらっしゃいました。

片や薬王院グループは、緩やかな坂道を上り、薬王院目指して歩いて行きました。根が、たこの足のように見えるたこ杉や、樹齢700年を超える大杉など、折に触れてガイドの方の丁寧な解説が入ります。霧が煙る景色も、それもまた乙なもの。雨や寒さがあまり気になることなく、往復1時間の散策を楽しむことができました。

そして、散策後のおたのしみは、昼食のイタリアンです。寒かった屋外から一転、暖かい室内で心も体も緩み、昼食後の歓談の時間では、おしゃべりが弾みます。訓練のこと、日常生活でのちょっとした困りごと、おすすめのお店情報など、様々な話題が繰り広げられていました。

今回の参加者は、当事者同士の繋がりがあまり無い方、若い世代の方が多く参加されており、「同じような立場の方がいて、とても励みになった」といった声をいただくことができました。次年度以降も、みなさんにとって実りのある交流会を開催していきたいです。

日本点字図書館は、指定管理者として、川崎市視覚障害者情報文化センターを運営しています。

にってんワークショップ開催報告

第4回「見えない・見えにくい人に役立つ便利グッズ」・第5回「耳で聞く読書とは」

5月から始まった体験型講座「にってんワークショップ」は、毎月受付を開始すると締切日を待たずに定員に達するほどのご好評をいただいています。

第4回となる9月のテーマは、「見えない・見えにくい人に役立つ便利グッズ」。目が見えなかったり見えにくいと日常生活でどんな不便があるのかについて、視覚障害職員と晴眼職員が1日の生活の流れを通して不便となることを挙げながら、それを解消するグッズや工夫を紹介して生活を楽しんでいる様子を話しました。その後、スクリーンを使って目が白く濁ったり、暗く感じたり、一部が欠損する見え方を説明。点字で「おさけ」と表示された缶ビールやシャンプーボトルのギザギザなど身の回りにあるバリアフリー商品を実際に触れてもいただきました。最後に用具ショップで販売している商品のいくつかを「見る」「測る」「触る」の用途別に紹介し、それぞれを確認。参加者の幾人かは、ガラスの部分が半透明で白くにごって見えたり、視野の狭さを体験できるロービジョンサングラスを掛けながら拡大読書器で資料を読んだり、見えにくさを体験したり、触読式の時計で時刻を読み取ったりするなど興味深々の様子でした。糸通しや、計測された数値がメモリーに数十件残る音声血圧計などは、自身も欲しいといった声も聞かれました。普段目にするものの少ない用具に触れ、「誰にとっても使いやすいグッズが誕生することを望みます」との感想があったことから、視覚障害者の不便さを理解していただくひとときになったのではと思います。



第5回は「耳で聞く読書とは」と題し、録音図書とその製作方法について理解を深めていただきました。企画・進行は録音製作課が担当。小学生3名を含む9名の参加者を得て10月8日午後を開催しました。

当日は最初に「録音図書とはどういうもの？」として、録音図書は視覚障害者だけではなく、学習障害者やページをめくれない上肢障害者等、活字の本をそのままの状態では読めない人達にも利用されていること、文を読む際は意味を捉えて読むことが大切であること、写真や図表も省略せずに説明していることを話し、実際の録音図書の一部を聞いていただきました。

次に「内容を正しく伝えるポイントとは？」として、前半は文の読み方を取り上げました。職員が「先日亡くなった兄の、娘が、遊びに来た。」と読むべき文を「先日亡くなった、兄の娘が、遊びに来た。」と読み上げ、適切に区切って読まないと内容が正しく伝わらないことを実感していただきました。その後、お一人ずつ、職員が渡した文を指定したとおりの意味で伝わるよう読み上げに挑戦。全員正しく読むことができました。

後半は写真やイラストの説明方法。最初にある本の一文「大洪水により、首都圏の交通がマヒ……」を紹介し、この文に添えられている写真をイメージします。写真は、地下鉄駅構内に大量の雨水が流れ込んでいる場面でしたが、交通量の多い道路や地上の駅だったりなど、人によってイメージがバラバラ。それ故に、写真の説明が必要であることをお伝えしました。その後、写真を説明するときのポイントを話し、夏目漱石の肖像画やフランス国旗の説明文づくりに挑戦、お一人ずつ発表していただきました。各自ポイントをおさえながらも説明の表現や順番などに個性が表れていて、興味深い内容でした。続いて、当館4階の録音スタジオへご案内し、実際に職員が録音しているところを見学していただきました。

最後は、理事長の長岡が読者の立場から録音図書の利用についてお話ししました。普段、時代小説を楽しみに聞いていること、学生時代から現在に至るまで必要な知識や情報を得るために録音図書が役立っていること等、録音図書が自分の生活に欠かせないものであることを語り、参加者の皆さんは熱心に耳を傾けていらっしゃいました。



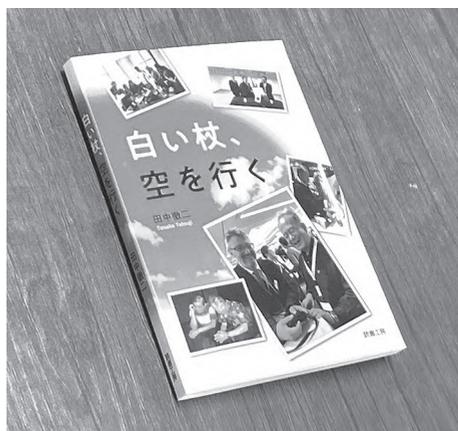
田中会長『白い杖、空を行く』を上梓

たちばなあけひこ
館長 立花明彦

視覚障害者自らが著した図書には『白い杖、いきいきと街へ』『白い杖のひとり旅』などに見られるように、書名に白い杖を用いたものが多くあります。2022年9月、これらに新たな一冊が加わりました。『白い杖、空を行く』がそれです。著者は当館の田中徹二^{たなかつじ}会長。

当事者として視覚障害者の事情に精通し、深い見識と知見をもつ田中会長は、これまで様々な視覚障害の社会問題の解決に携わってきました。それらについては2015年に刊行した『不可能を可能に－点字の世界を駆けぬける－』（岩波新書）にまとめられています。一方、1980年代の半ばころからは視覚障害に関わる海外協力にも関心をもち、当館の新しい事業としても手がけられました。特に美織^{みおり}夫人との結婚を機にヨーロッパ、アジアなどの国々へ出かけることが多くなり、海外協力や国際会議はもとより、観光をも含めて渡航しており、訪れた国は49か国にのぼるとか。それらの国々の事情などは点字の雑誌『点字ジャーナル』誌上でいくつか紹介されていますが、墨字での報告はほとんどなく、本書は晴眼者にとって待望の書となっています。

各章には、訪れた土地で暮らす人々との交流や食事、文化に関するエピソードも盛り込まれ、現地の写真も豊富に30数枚掲載。中には若き日の会長を写したものもあり、貴重な1冊になり得るかもしれません。本書は当館の用具事業課でも取り扱っています。



本体 1,800 円＋税（発行：読書工房）

第11回企画展

「石を感じる」展 開催中

いとうのぶざね
ふれる博物館館長 伊藤宣真

「石ですか？」果たして視覚障害者が石に興味を持たれるのか、この企画が案として出てきたときは不安でした。今までの企画展は、当館と共催の「手と目でみる教材ライブラリー」の^{おおうちすすむ}大内進先生とで案を出して開催していましたが、このたび当館の利用者でもあった^{さかいようた}酒井陽太氏から、ご自身が名誉館長を務める^{きせき}「奇石博物館」（静岡県・富士宮市）の展示品を「ふれる博物館」で紹介したいとの申し出をいただいたのです。

周辺の視覚障害者に聞いてみたところ、意外にも石に興味がある方が多く、自信をもって第11回企画展として開催することにいたしました。

同博物館からご提案いただき、テーマを設け、手ざわり、重さ、音、匂い、文学作品に出てくる石のコーナーに分けて紹介します。地球の一部を成す岩石の不思議に触れてみてください。

主な展示品は、^{かこうがん}花崗岩、^{しろうんも}石英、^{ろうせき}白雲母、^{じてつこう}蠟石、^{ほうえん}ポーキサイト、^{おうてつこう}磁鉄鉱、^{こう}方鉛鉱、^{おうてつこう}軽石、カンカン石、富士山の溶岩、鳴き砂、スパー石、^{おうてつこう}黄鉄鉱、石灰岩、アンモナイト（化石）、アメシスト、ルビー、サファイア。

会期は3月18日（土）まで。祝日を除く水曜・金曜・土曜に開館しています。ご来館をお待ちします。

※ 事前予約制です

【お申込み・お問い合わせ】

090-3247-7290（10時～16時）

（ふれる博物館開館日のみ）

03-3209-0241（代）（9時～17時）

（その他の日、本館代表番号）



アンモナイト（化石）



私と日点

ほんごうひろみつ
利用者 北郷博光

47歳で、網膜色素変性症により視覚障害全盲者となって、74歳の夏を迎えた、娘から「お父さん、全盲生活は、あと何年続くかわかりません、新しい生きがいを求め、点字学習でも始められてはいかがですか」と言われ師（来宅方式）で、目標を設定練習に励んだ。

目標達成間近になると先生は、「達成の暁は、東京で療養中の奥さん、二人の娘さんと共に学習を続けてくださいね、もし点字学習に困った時は、日本点字図書館を頼りにするが良い」と結び別れた。

日本点字図書館とは、それまでも点字学習用品、用具の調達、読み練習のための点字本と資料などの活用で交流はありました。

親交の始まりは、私筆点字原稿の墨訳者求めて、苦悩と絶望のアドバイスが始まりであった。

直筆点字墨訳原稿（『見えない幸せ』、『徳之島戦争体験記』）は、日本点字図書館プライベートサービス所属の個人朗読者により解読され2冊の本が生まれ、さらに録音図書（デージー）が発刊された。

このうち（徳之島戦争体験記）は琉球新報紙面、南海日日新聞紙面とウェブに配信され、多くの方々からの反響を呼びました。

遠くは、沖永良部島和泊町の視覚障害者の世話人から「障害者の生きがいの芽生えに是非活用したい旨」があり、それを点字図書館に伝え、直ちに「本は、北郷さんから、デージーは私たち図書館から送らせていただきます」との連絡が入った。

2冊の本とデージーを手にした世話人は、「早速の手配ありがとうございます、きっと私たちの生きる糧とさせていただきます、ありがとうございます。なお点字図書館の方にもこの旨ご連絡されるよう願います…」と電話があった。

「ともしびの 火種絶やさず いつまでも 灯り続けて 明日を照らさん」

手打ち点字の執筆のスピードアップに85歳になり、パソコン利用技術の習得すべく挑もうとするが65歳の年齢制限に阻まれ不可能と思われていた望みは、関連職員のご尽力であろう、可能となり、週1日、開館時間内2コマ以上が利用可能になった。

以後アイサポートのガイドヘルパーと共に日点パソコン教室で励んでおります。

「海原の かなたに浮かぶ ふるさとに 灯りしあかり 永久に灯さん」

点字図書館には、視覚障害者の心の眼として永久にあり続かんことを祈りつつ点筆を置かせていただきます。

※点字でご執筆いただいた原稿を墨訳致しました。（編集部）

◆ ◆ ◆ 明日につながる支援の力 ◆ ◆ ◆

このコーナーでは、当館をご支援くださっている団体・企業などをご紹介します。(総務部)

ハウス食品労働組合

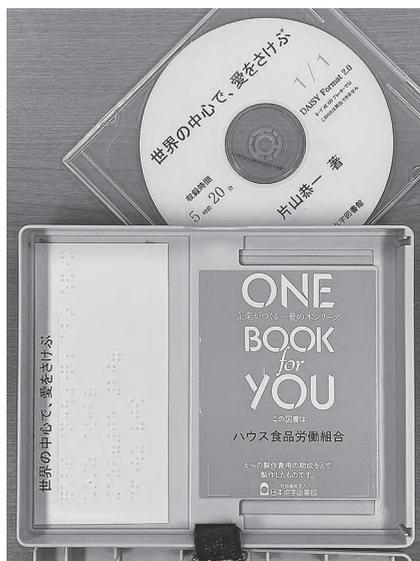
本欄でたびたびご紹介しております「ワンブック・プレゼント運動」。点字図書もしくは録音図書の製作費として1タイトル(原本1冊)あたり、10万円のご協力をいただくご寄付ですが、個人や会社だけでなく労働組合からもご協力をいただいております。

労働組合の社会貢献の一つの形として当館の活動への支援を選択いただきたいへん感謝しておりますが、その中でもハウス食品労働組合は、1995年以来昨年まで毎年ご支援を続けて下さり、製作した録音図書は合わせて100タイトルに達しました。始まりのころはカセットテープ図書の時代でしたが、2002年からはCD図書に変わり、今ではインターネットでも聴くことができます。

ワンブック・プレゼント運動による図書には、ご寄付をいただいた方からのPRコメントを入れており、ハウス食品労働組合のご寄付による録音図書には朗読の前に以下のコメントが入っています。

「声かけ合おう 心とこころ」のハウス食品労働組合

今までのご支援に感謝申し上げるとともに、今後のハウス食品労働組合の益々のご発展をお祈り申し上げます。



配架・郵送兼用ケースの内側にも
お名前を入れています

知識の窓、慰めの泉となるために！

点字製作課 ^{すずき}鈴木 ^{いずみ}泉

普段お読みになっている本の中で使用されている記号の名称をご存じですか？

「原本は山括弧が付いています」

「それは強調の意味だから点訳では第2カギがいいかな」

このようなやり取りを毎日繰り返しているのは、図書製作部点字製作課の校正者。墨字原本を見る晴眼者と点訳書を指でたどる触読者（視覚障害者）です。盲学校で点字を習った視覚障害者の私でも、第2カギという点字特有の記号を知ったのは、点字図書館で校正の仕事に従事するようになってからです。

墨字の著作物では、文字の大きさを変える、ピンクや紫のような目立つ色の文字にする…など、視覚に訴えることが出来ます。それらを人差し指でカナ文字体系の点字を一文字ずつなぞる視覚障害者にとって読みやすい点訳書にするために、点訳ボランティアの方々、点字製作課の職員は、漢字の正しい読み方を丹念に調べたり、レイアウトを工夫したり、利用者の皆様の読書を支えるべく精魂を込めて図書を製作しています。それでも、弘法も筆の誤りということはありません。点訳書と原本とを照合し、点訳書に誤字脱字はないか、点訳の規則にのっとっているか、視覚障害当事者の校正者が読んで内容理解に問題のないレイアウトになっているか等々を確認、検討します。点訳される物の分野は文学書、自然科学、レシピ本、教科書、選挙公報と多岐にわたります。読者に正しい情報と読書の喜びをお届けできるよう、点訳書が読者の知識の窓、慰めの泉となるよう、勉強、努力の日々です。

私の仕事の支えとなっている、当館創立者・本間一夫の言葉をご紹介します。

今日文字の無い、あるいは読書することのない一般人の世界が全然考えられないのと同様に、否それ以上に盲人の日常生活で点字の本は、かけがえのない知識の窓であり、慰めの泉であります。点字に指をはしらす時だけは、身の不自由を忘れて、晴眼者と同じ読書の喜びに浸ることができるのです。

ご存知ですか?

こんな商品

わくわく用具ショップより、どなたが使っても便利な新商品をご紹介します。ウェブショップからもお買いものができます。ぜひご利用ください。

お問い合わせ 03-3209-0751

URL <https://yougu.nittento.or.jp/>

指先が出るやわらか手袋 Mサイズ

[価格] 2,100 円 (税込)

[素材] アクリル・ポリエステル・ナイロン・ポリウレタン

[メーカー] 株式会社マルミヤ手袋



毎年大好評の、当ショップでしか買えないオリジナル手袋です。両手の親指、人差し指、中指、薬指の先に縦のスリット（穴）があり、手袋をはめたまま、指先を出すことができます。お客様からのご要望にお応えして、今年から薬指のスリットが追加されました。

カラーは、全体がグレーで、ブラックのボーダーがはいっています。やわらかくて軽く、チクチクしないのが特徴です。手袋をはめた瞬間、ふんわりとした温かさに包まれます。

当ショップと手袋製造が盛んな香川県東かがわ市の手袋メーカーが企画・製作しています。

安心の日本製となっており、どなたでもお使いいただきやすい柄のため、プレゼントにもおすすめです。

チャリティコンサートご協力のお礼

昨年11月27日（日）に上野の東京文化会館にて開催しました当館のチャリティコンサート「武久源造^{たけひさげんぞう} リサイタル with バロックダンス 岩佐樹里^{いわさじゅり} バッハ=躍動する命」にご来場いただき、誠にありがとうございました。本コンサートでは鍵盤楽器奏者の武久源造さん、バロックダンサーの岩佐樹里さん、岩佐笙花^{いわさしょうか}さんをお迎えし、素晴らしい演奏と踊りを披露していただきました。

ご来場の皆様には新型コロナウイルス感染症対策にご協力いただき、おかげ様で無事に開催することができました。ご支援ご来場いただいた皆様、ならびにご協賛、ご後援いただいた皆様には、心より御礼申し上げます。

次回のチャリティコンサートは、10月28日（土）の午後に、今回と同じ東京文化会館小ホールにて、弦楽四重奏団 HONO Quartet^{ほのカルテット}の皆様とヴァイオリニストの澤和樹^{さわかずき}さんにご出演いただく予定です。開催の際には多くの方にご来場いただき、当館の運営を支えていただけますと幸いです。

にってんフォーラム〈第126号〉 2023 冬

発行 2023年1月25日〈年4回発行〉
発行人 長岡英司
編集人 立花明彦
発行所 社会福祉法人日本点字図書館
〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1-23-4
電話03-3209-0241（代） FAX03-3204-5641
URL <https://www.nittento.or.jp/>

*本誌の記事を撮影したり、光学的に読み取ったりしてSNS等で発信したりウェブサイトへ転載することを固くお断りします。

ワクワク! ドキドキ!



あなたと映画を観たい。

映画みている!

「スマホで聞く音声ガイド」



NPO メディア・アクセス・サポートセンター

〒151-0061 東京都渋谷区初台 1-51-1

初台センタービル 709号室

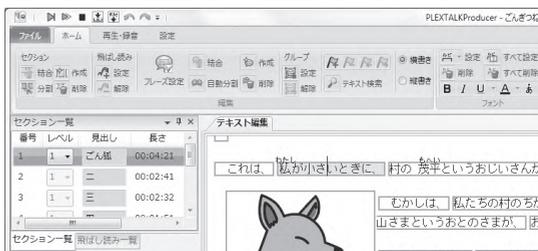
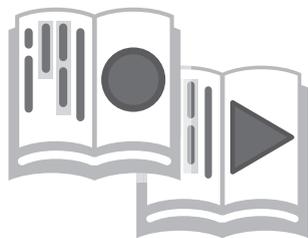
MASC

検索



ポットキャスト

音声 / テキスト / マルチメディア DAISY 製作ツール



PLEXTALK Producer

で作れる 新しい DAISY のカタチ

音声DAISY … 録音図書の様式

- ⊗ テキスト文書から音声合成で図書が作れます
- ⊗ CD書き込み機能で、直ぐに貸し出しできます

テキストDAISY … 音声のない DAISY

- ⊗ データ容量が小さく、受け渡し時間が短縮できます
- ⊗ ルビ振りにも対応し、正しい読みも担保できます

マルチメディアDAISY … 音声とテキストのマルチメディア

- ⊗ ディスレクシアなど合理的配慮の利用対象者が広がります
- ⊗ 既存の音声を使ってマルチメディア化もできます

90日間無料操作体験版は www.plextalk.com からダウンロードできます

サポート OS	Windows 11、Windows 10、Windows 8.1 以降 ※ 各 OS は日本語のみサポート
プロセッサ	Intel Core i3 以上推奨
メモリ	4GB 以上推奨

レイアウトツール 文字化ツール (OCR) でデータ取り込みが楽々！

PLEXTALK Producer 簡単取り込みセット ¥88,000 (税込)

PLEXTALK Producer 単体 ¥49,500 (税込) 簡単取り込みオプション ¥38,500 (税込)

販売元：

シナノケンシ株式会社

〒386-0498
長野県上田市上丸子 1078

製品情報、ご注文はホームページ：

www.plextalk.com

※ Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。Intel Coreは米国および/またはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
※ 記載の情報は2022年6月のものです。機能および外観デザインなどは、性能向上その他の理由で、予告なく変更することがあります。PLEXTALK、PLEXTALKロゴはシナノケンシ株式会社の商標です。